



熊本再春医療センター医療連携室だより



再春

令和6年 第2号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春医療センター
編集：地域医療連携室

KUMAMOTO SAISHUN MEDICAL CENTER

熊本再春医療センターホームページ <https://saishun.hosp.go.jp/>



病院の理念

思いやりの心で
患者、地域、職員に愛される病院

病院運営の基本方針

1. 治し、支える医療の実践
2. 専門医療の推進
3. チーム医療の実践
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定
6. 働きがいのある職場作り

Contents

1. 院長あいさつ 2
2. 診療科紹介【リウマチ科】 3
3. 病棟・部門紹介【4階病棟】 4
4. 開放型病院登録医紹介【なかむらファミリークリニック】 4
5. 病棟・部門紹介【診療情報管理室】 5
6. 開放型病院登録医紹介【緒方整形外科医院】 5
7. 能登半島地震における支援活動報告① 6
8. 能登半島地震における支援活動報告② 7
9. 採用・異動者からの挨拶 8~10



ご挨拶

病院長 上山 秀嗣

令和 6 年度を迎え、みなさまには当院に対して暖かいご支援とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は昨年 5 月に 5 類感染症に移行し、本年 4 月からは全ての公的医療補助がなくなり通常の診療体制となりました。今後の入院診療は全ての医療機関で対応可能となった訳ですが、入院患者に対する空床補助制度も廃止され、今後果たしてどれ位の医療機関がコロナ入院診療を担えるのかという不安があります。

昨年 3 月 8 日、9 日の 2 日間にわたり、5 年ぶりに日本医療評価機構による病院機能評価 (3rdG Version 2.0) の認定更新審査を受審し、6 月に認定証が届きましたのでご報告申し上げます。1 年前より地道に準備をしてきた結果が実を結んだものと職員一同喜んでいますが、これからも「医療の質」を上げるために不断の努力を続けて参りたいと思っています。

令和元年 11 月に着工しました合志市による「御代志地区土地区画整理事業」ですが、昨年 8 月に御代志木原野線の交差点移設工事が終了し、2 月から病院前の商業施設の建設工事と国道 387 号線の拡幅工事が開始されました。今年度末にはスーパーマーケットやファーストフード店などが立ち並ぶ予定となっていて、病院前は見違える風景となることが予想されます。そして、菊陽町

に建設中であった台湾の半導体メーカー TSMC の巨大工場が 2 月末に開所し年末から本格稼働予定とのことで、今後菊池地域は人口増加に伴い医療需要も高まることが予想されます。一方、TSMC の進出によって菊池地域の地価や人件費の高騰が問題となっており、医療スタッフの確保が困難な状況です。

4 月からは医師の働き方改革が実施されます。当院は年間を通して時間外勤務時間は比較的少なく A 水準を満たしていますが、これ以上常勤医が減りますと当直が回らなくなることを懸念しています。

関連医療機関の皆様との連携の会であります「医療連携の集い」ですが、今年は 6 月 8 日 (土曜日) 18 時 30 分より ホテル日航熊本において開催予定ですので、万障繰り合わせの上ご参加の程よろしくお願ひ申し上げます。

当院は熊本県地域医療支援病院、熊本県難病診療分野別拠点病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、熊本県地域医療拠点病院として、責任ある地域医療への貢献に努めてまいりますので、皆様には今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

リウマチ科は、2001年4月に新設されました。当時、関節リウマチマネジメントは、Careが中心でしたが、この頃から、関節リウマチ治療に大きな飛躍がおりつつあるときで、治療目標がCureへと変わるのではと期待されはじめたときでした。

当科では、抗CCP抗体検査を可能にし、発症早期の関節リウマチを見つけ出し、診断後速やかに、メトトレキサート（MTX）を導入することで、ADL、QOLの著しく低下した患者さんが、普通の生活を送れるようになりました。その後、多くの生物学的製剤やJAK阻害薬を用いて、診断から3か月以内には、9割以上の患者に低疾患活動性、寛解へと誘導しています。

しかしながら現在でも、関節リウマチの長期マネジメントについて不明な点が多く、当科は、関節リウマチの臨床研究をおこなうことを大きな柱にしてきました。現在まで延べ800名の患者さんを観察して多くのことを明らかにしてきました。

主な研究は、

- (1) 関節リウマチ発症早期の肺のHRCT所見：関節リウマチでは、発症初期より細気管支炎、気管支拡張症が顕著で、呼吸器感染症発生リスクの最大の要因であるとともに、リウマチ発症の場となることを提案。
(Mori S et al. J Rheumatol.2008;35:1513.)
- (2) 関節リウマチの致死的副作用であるニューモシス肺炎（PCP）の原因菌ニューモシス・イロベシイがヒト-ヒト感染により伝搬され、MTXとTNF阻害薬が主な発症リスクであることを示す。また、発症予防投薬法を提案。

(Mori S & Sugimoto M. Rheumatology (Oxford). 2012;51:2120.)

- (3) 抗IL-6受容体抗体(商品名アクテムラ)治療により抗体産生能が抑制されることはない。また、有効性発揮にMTX併用は無用であることを示し、特に腎不全患者に対してもリウマチ治療が可能なことを示す。
(Mori S et al. Annal Rheum Dis. 2013;72:1362), (Mori S et al. Annal Rheum Dis. 2012;71:2006), Mori S et al. Annal Rheum Dis. 2015;74:627)
- (4) MTXの頻度の高い有害事象に肝障害が知られていますが、その本態は、非アルコール性脂肪肝（NAFLD）/非アルコール性脂肪織炎（NASH）の顕性化であることを示しました。
(Mori S et al. PLoS One. 2018;13:e0203084)
- (5) 関節リウマチでは、肺がん発生リスクが高いことが知られていますが、その原因として、背景は、肺繊維症と肺気腫を併存していることによるものであることを示す。
(Mori S et al. PLoS One. 2024;19:e298573)

治療成功例、失敗例、有害事象の徹底した検証から、海外文献からだけでは知りえない多くのことを学びました。まさに、患者さんに教えられ、現在の治療レベルの向上につながっています。

病棟・部門紹介 No.21

4階病棟のご紹介

4階病棟看護師長
嶋井 久美子

4階病棟は、急性期治療を経過し病状が安定した患者さんに対して、在宅や介護施設への復帰支援に向けた医療や支援をおこなう地域包括ケア病棟です。主に運動器に障害がある患者さんの術後リハビリテーションや呼吸器リハビリテーション、パーキンソン病のリハビリテーションなどを受け入れています。また、整形外科や外科、胃瘻造設などの手術患者さんも受け入れ術後管理をおこなっています。患者さんが住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、在宅復帰に向けて専任のMSWとともに患者さん・家族の意向を確認しながら退院調整をおこなっています。退院した後の生活支援を継続するために、必要に応じて担当ケアマネージャーと連絡を取り、入院経過や在宅での継続事項など退院カンファレンスをおこない地域につなげています。入院患者さんの平均年齢は72歳で、高齢のため認知症を発症している患者さんもおられます。看護の質を高める取り組みとして、認知症看護認定看護師を中心に、高齢者体験や排泄場面のロールプレイングを実践するなど、患者さんの尊厳を守る看護実践を心がけています。また、コロナ禍で中止していた病棟内デイケアを昨年より不定期で再開しました。参加された患者さんは、体操や切り絵、散歩などを通して、他患者と交流し会話を楽しみ、たくさん笑顔を引き出すことができています。4月には病院敷地内の桜を一緒に見に行き、患者さんは「何年ぶりに桜を見たかな、きれいね」と話しをされていました。入院中でも四季折々の風景やイベントを感じていただき、退院へ向けて前向きに取り組む環境を提供していきたいと考えています。患者さんだけでなく、看護師が看護する喜びを感じることができる取り組みとして、日頃からジレンマに感じていることなどを話し合う倫理カンファレンスを週1回実施しています。患者さんと家族の視点や思いに寄り添った看護について考え、日々の看護を振り返り実践したい看護について語る時間を設けています。今後も、多職種と協働しながら安心して住み慣れた地域へ復帰できるよう、患者さん・家族の思いを大切にしながら看護を実践していきたいと思っております。



開放型病院登録医紹介

なかむらファミリークリニック

院長／中村 憲史

熊本県熊本市北区武蔵ヶ丘7-1-1

TEL 096-339-1711 FAX 096-339-1764

診療内容／内科一般・胃腸内科・美容皮膚科

診療時間／ 9:00～12:30

14:30～17:30

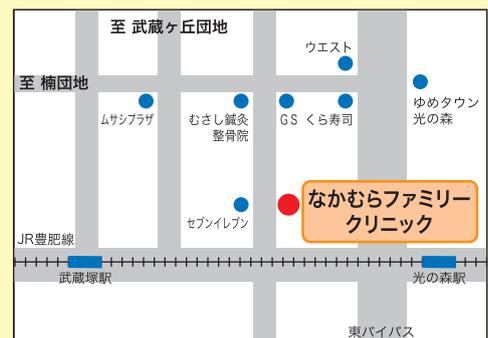
診察日・診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～12時30分 (受付開始8:50)	○	○	×	○	○	○	×
14時30分～17時30分 (受付開始14:00)	○	○	×	○	○	○	×

※「完全電話予約制」となられています。

なかむらファミリークリニック 中村院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

北区武蔵ヶ丘に位置し、内科一般・胃腸内科・美容皮膚科を主体として地域の多くの患者さんの診療をされておられます。

特に高血圧・糖尿病・ぜんそく等の内科一般領域を幅広く診療されており、内視鏡検査にも力を入られています。



病棟・部門紹介 No.22

診療情報管理室のご紹介

診療情報管理士
草場 亮介

診療情報管理室の場所は管理棟西側3階にあり診療情報管理士が3名配置されています。他院では中央病歴室等と呼ばれている場合もあります。

診療情報管理室の業務が分からない方も多いと思いますが、当院の診療情報管理室における主な業務は1. 診療情報データの入力および管理、2. 書類の管理、3. 完成していないデータ（例：医師サマリー等）の確認です。1. について、当院ではセキュリティーの関係上電子カルテ端末にUSBを差し込むことが出来ません。当院指定のUSBを使用する必要があり診療情報管理室にて作業を行う必要があります。また、特定の算定要件に関わるデータ登録（データ提出加算や緊急整備固定加算に関する登録）も行っています。特にデータ提出加算は様々な算定要件に関わっており重要な業務と考えています。さらに、JOANARやNCDといったデータベース登録、がん登録業務も行っています。2. 書類の管理についてですが、紹介状やそれに添付してあるCD-R、同意書や検査結果等の紙媒体は診療情報管理室で保管管理しています。現在当院では電子カルテが運用されていますが、2009年10月までは紙カルテが運用されていたので、一部患者さんの紙カルテ及びフィルムも保管管理しています。3. データの確認ですが、主に退院時サマリーや手術記録、読影レポートに対する確認を行っています。

また、ドクタークラーク（医師事務作業補助者）や他部署と関わり、業務が円滑に進むように資料等を作成する場合があります。

他にも診療録等管理委員会を奇数月に開催しています。副院長司会のもと、入院診療計画書の監査結果やサマリリーの完成率についての報告、新規テンプレートを電子カルテに組み込む際など診療記録に関することをこの委員会で話し合っています。

診療情報管理室は、直接患者さんと接することはありませんが、診療記録という情報を通して関わっています。今後も患者さんの大切な情報を扱う部門として、慎重かつ丁寧に業務を行ってまいります。



開放型病院登録医紹介

緒方整形外科医院

院長／緒方 正光

熊本県合志市幾久富1758-690

TEL 096-248-8181 FAX 096-248-8310

診療内容／整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

診療時間／ 9:00～12:30

14:00～18:00（土曜日は9:00～13:00）



診察日	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～12時30分	○	○	○	○	○	○	×
14時00分～18時00分	○	○	○	○	○	×	×

緒方整形外科医院 緒方院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

また、過去に緒方院長先生のお父様が当院にて外科医として勤務されていたというつながりもあります。

合志市幾久富の国道316号線沿いに位置し、整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科を主体として入院病床19床、充実したリハビリテーション施設を有され地域の多くの患者さんの診療をされておられます。



能登半島地震における支援活動報告①

つくし2病棟 看護師 徳光 美子

今回 2024 年 1 月 17 日～ 2 月 1 日の 14 日間、国立病院機構 (NHO) の災害派遣に行き参りました。震災派遣先となった病院は金沢市にある金沢医療センターでした。震災後、避難所生活で体調を崩した人や、新型コロナウイルス感染などによる入院患者が増加し、今後も入院患者が急増することを想定し、休棟していた 1 病棟に急遽ベッドを運び入れ、1 月 10 日より開棟し受け入れを始められました。スタッフは、金沢医療センター看護師 8 名 (看護師長、夜勤専従看護師含む) と全国の NHO より派遣された

看護師で、被災者または被災地施設より転院した患者の診療の補助と療養上の世話を行いました。派遣看護師の第 1 陣は、1 月 10 日より全国より 8 名派遣され、私は第 2 陣として他の病院看護師 10 名と共に合流しました。被災者の受け入れは、金沢医療センターの各々の診療科病棟で一般入院として受け入れ、術後や病状が安定してきた患者を転棟という形で受け入れるという流れでした。一日 5～6 名ほどの転入があり、病棟の最大入院患者数は 37 名程度でした。

入院患者の主な疾患としては、クラッシュ症候群、被災による骨折、避難所での新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、ノロウイルス、誤嚥性肺炎、脱水症など様々な診療科の軽症～重度の患者を受け入れました。1 月 20 日頃より、徐々に病状が落ち着いた人は、退院前カンファレンスが実施されるようになりました。患者さんは介護度が高く、体育館や公民館などの 1 次避難所では、対応困難なため、福祉避難所である 1.5 次避難所に退院される方が多かったです。他の医療機関と連携で退院調整がなされ 2 月 29 日閉棟となったそうです。

震災派遣を通して感じたことは、『①患者の精神的なケアの重要性、②現地のスタッフも被災者であり支援が

必要なこと、③行く先がない人への支援課題』でした。当院でも予測できない災害に対し、定期的な初期対応訓練の継続やシュミレーション教育の体制づくりなど、病院全体での取り組みが必要と感じました。「予測」と「準備」を継続し、日頃から災害に対する行動ができるように備える必要があると考えます。また、全国 140 病院のネットワークを活かし、患者を「つなぐケア」の重要性を学び感じることができました。今後もこの経験を活かし自身の看護に繋げていきたいと思えます。最後に写真の夕日は、患者さんの部屋から、患者さんとスタッフと一緒に見た奇跡の夕日です。石川県の冬は曇りや雪が多く、太陽を見ることは、ほとんどないそうです。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。



能登半島地震における支援活動報告②

つくし1病棟 看護師長 林田 真由美

今回、2024年3月16日～3月23日まで、厚生労働省依頼の広域看護師派遣で石川県輪島に行ってきました。

3月16日に石川県金沢市まで移動し、3月17日に、金沢駅に日本赤十字病院をはじめ全国の各病院から15名が集合し、バスで輪島市に出発しました。派遣先は市立輪島病院です。市立輪島病院は能登半島北部地域において、災害拠点病院としての役割や救急医療を担っている病院で、震災直後より多くの患者さんを受け入れていました。輪島市の被災状況は、建物が倒れ、瓦礫や道路の損壊があり、マンホールが隆起しているところもありました。震災から3か月経過していますが、倒れた建物がそのままになっていました。

3月18日～21日まで市立輪島病院で、病棟勤務を行いました。業務内容は、清潔ケアや排泄ケア、認知症の患者さんへの支援等でした。勤務当初は下水道が復旧していなかったため、うがい水など凝固剤で固めて処理をしました。

市立輪島病院の看護師より震災直後の状況など話を聞かせていただきました。退職意向を示した看護師に対して、「家族の今後や子どものことを考えると輪島を離れる看護師や職員がいても仕方がない決断だと思っている。」「今沢山の人が病院の部屋を使っている。仮設住宅も抽選で、朝市の人たちから優先で、これからどうなるのか正直不安」「私たちは病院の備蓄で食べ物の配給があるのに、家族は避難所で食べるものの配給もないなかで、自分だけ食事をとることが申し訳ない」など話をされ、今後の見通しが立たないことへの不安を話されました。看護師長さんは、「被災当時は管理者として患者さんはもちろん、スタッフの安全や健康管理にすごく神経を使いました。自分は師長としてどうするべきか、スタッフはちゃんと食べているのか、寝ているのか、みんなの家族はどうしているのか、自分のことなんて考えている暇はなかった。そんな中支援の方が沢山来ていただき、本当にありがたかった。みなさんに声をかけてもらい、助けてもらった。」と言われました。自分も被災者として大変な状況で、患者さん・スタッフのことを考え対応されていました。自分はどこまで対応できるのか、できないことが多いのではと考えました。日頃から患者さんやスタッフのことを考えて行動していることが、この行動につながったのではないかと思います。今回の学びを今後に生かしていきたいと思っています。



採用・異動職員からのごあいさつ

■ 医師

呼吸器内科医師
徳永 龍輝

2024年4月より呼吸器内科に赴任致しました徳永 龍輝と申します。天草地域医療センターにて初期研修を行い、その後熊本大学呼吸器内科に入局し、熊本大学病院、熊本市民病院、熊本地域医療センターにて勤務し、今年度より熊本再春医療センターに赴任となりました。まだまだ短い間ですが、4月より勤務させていただき、肺炎、肺癌、間質性肺炎の精査治療など、様々な症例を診る機会があると実感しております。また、昨年よりCOVID-19が5類感染症となるなど、呼吸器内科診療として変化を感じており、世の中の変化に対応し日々の診療を行う必要があると痛感しております。

慣れない点、至らない点があるかとは思いますが、できるだけ早く当院呼吸器内科の一員として地域の医療に貢献できるよう励んでまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

呼吸器内科医師
泉 拓希

この度熊本再春医療センターで勤務することになりました、呼吸器内科の泉 拓希と申します。熊本大学を卒業後、北九州で初期研修を行い、呼吸器内科としての3年目以降は熊本市や宮崎の延岡市などで診療をしてまいりました。合志や菊池の地域は初めてとなります。呼吸器内科としては、落ち着いてはきたものの依然としてCOVID-19の感染症の方は出続けており、そのほかにも肺炎をはじめとした感染症や、肺がん、閉塞性肺疾患など多岐にわたる疾患があり、日々診療をさせていただいております。先日30歳になったばかりで医師としては6年目とまだまだ若輩ではありますが、地域の健康増進や呼吸器診療に精一杯努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

放射線科医師
杉谷 亜希

令和6年4月より熊本再春医療センター放射線科の医員として着任いたしました。熊本再春医療センターは専門医療機関ということで、学ばせていただくことが非常に多く毎日充実しております。

患者さんと直接接する機会はあまりありませんが、画像診断を依頼していただいた臨床の先生方のお役に立てるよう、延いては患者さんのお役に立てるよう、ひとつひとつの症例に真摯に丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

若輩者ですのでご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

整形外科医師
唐田 宗一郎

今年度より熊本再春医療センターで勤務させていただくこととなりました、整形外科 唐田 宗一郎と申します。佐賀大学医学部医学科を卒業後、熊本大学病院での初期研修を経て、熊本大学 整形外科へ入局し、大学病院、熊本医療センター、人吉医療センター、済生会熊本病院などで勤務しておりました。熊本再春医療センターには4年前に在籍していたことがあり、戻ってこることが出来て大変嬉しく思います。

至らぬ点も多く、近隣の先生方、医療スタッフの皆様方には今後ご迷惑をおかけする場面も多々あると思いますが、合志市の医療に貢献できるよう、精一杯精進する所存でございます。ご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。今後とも、何卒よろしくお願申し上げます。

整形外科医師 山口 裕介

本年度より熊本再春医療センターで勤務させていただくことになりました、整形外科後期研修4年目の山口 裕介と申します。

佐賀県出身で大学から熊本に来て以来、気づけば熊本での生活も10年を超えました。荒尾市民病院（現有明医療センター）で初期研修後、熊本大学病院、人吉医療センター、熊本中央病院で勤務してきました。毎年のように異動で引っ越すのは大変ですが、熊本の北から南までいろいろなところに住めるのはいい経験でもあります。合志市は大きい公園もあり、まだ小さい子供と犬が喜んでいます。

整形外科医としてまだ駆け出しの身であり、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、少しでも地域の医療に貢献できるように精進したいと思っております。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

小児科医師 友枝 李果

令和6年4月より、熊本再春医療センターに赴任しました小児科の友枝李果と申します。平成30年に卒業後、県内各地6カ所の医療機関の小児科で勤務してきました。3月までは、熊本大学病院のNICUで、新生児医療を行っていました。もともと、感染症などの小児科急性期疾患ももちろんですが、起立性調節障害やさまざまな体調不良でお困りのお子様の力になりたいと思っていました。何かお力になれることがありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。親御様や地域と一体になって、熊本県内のお子様の健康を守るために尽力する所存ですので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

■ コメディカル

療育指導室長 末永 紀子

この度9年振りに当院で勤務することとなりました、療育指導室長の末永紀子と申します。出身は宮崎県ですが、大学卒業後初めての就職先が当院でしたので、気づけば熊本住まいの方が長くなり、帰省してももう滅多に宮崎弁も出なくなりました。9年前までは、つくし病棟や南病棟で勤務させていただきましたので、今回職員や患者さんと再会できることを楽しみに戻ってまいりました。9年の歳月による私の顕著な老いとマスク姿のせいか、認識してもらえないまでに一瞬の「間」があることも多々ありますが、それもまた楽しませていただいています。2度目の勤務ではありますが、以前とは変わっていることや新しくなっていることも多々ありますので、皆さまのお力添えをいただくことばかりかと思えます。以前勤務していた時よりも新しく大きくなった病院のように、私も心も頭もアップデートして（体型はアップデートしないように気をつけながら）、患者さんやご家族に寄り添える支援を行ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 看護部

看護部長 三島 潤子

この度、令和6年4月1日付けで異動して参りました、看護部長の三島と申します。

私は、平成16年4月に国立療養所再春荘病院を巣立ちました。そのあと佐賀、宮崎、福岡、沖縄、鹿児島と九州各県をまわり、20年ぶりに戻ってまいりました。当時とは建物も病院名も変わり、周辺の街並みも変わりましたが、満開の桜は変わらず美しく立派な樹木が並び、「あー、再春に帰ってきたんだな」と実感しました。そして、入職当時から16年の間にお世話になった患者さんやご家族、一緒に働いた仲間たちに温かく迎えてもらい、この地で、残りの看護師人生を過ごすことができることへの感謝の気持ちが高まりました。

熊本再春医療センターは、地域の人々に寄り添い、信頼される病院として歩んできた、とても歴史ある病院です。これまでの病院の歩みを尊重し、これからの一歩ずつを大切にしながら進んでいきたいと思っています。また、新型コロナウイルス感染症で世の中は大きく変わりました。災害や感染症など予期せぬ出来事や多様化する社会のニーズにもこたえられるよう、地域に愛される病院であり続けられるよう精一杯努めて参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

副看護部長
永江 容子

はじめまして。この度、熊本再春医療センターで勤務させていただき副看護部長の永江 容子と申します。初めての勤務地のため不安な気持ちで参りましたが、着任当日の病院敷地内は桜花爛漫、桜吹雪がみごとで、大変感激しました。同時に再春の皆様からもあたたかく迎え入れていただき、さらに感激いたしております。

熊本再春医療センターの一員として「患者、地域、職員に愛される病院」のために、皆様のご協力やご支援を得ながらフットワーク軽く全力で頑張ります。気軽に声をかけていただきますように、どうぞよろしくお願ひいたします。

3階病棟 看護師長
越猪 裕生

こんにちは、越猪裕生（おおい ゆき）です。国立療養所菊池恵楓園からの異動にて着任し、3階病棟看護師長を務めることになりました。名前の通り思いついたら突進してしまう傾向があり、一呼吸置いて、周りを見回してから行動、発言するように指導を受けていました。人の話をしっかり聴くこと、目の前の人を理解することがスタートだと思っています。新たな出会いがあると思いきわくわくしつつも不安もありますが、まだまだ楽しいことが起こりそうだと期待しています。自己研鑽し知識、技術、態度を身に着け自己成長したいと思っていますので、ご指導よろしくお願ひします。ただ、理解して内省できるまでに時間がかかるので、少しの猶予を頂けると嬉しいです。よろしくお願ひします。

6階病棟 看護師長
上田 麻衣

この度、熊本医療センターから師長昇任で参りました、上田 麻衣です。

熊本再春医療センターの職員の方々には看護学校時代に実習でお世話になりました。病院案内で拝見したとき、少し懐かしく感じましたが、師長としても未熟なものですから、日々右往左往しています。

熊本医療センターでは、血液内科や外来に勤務していました。抗がん剤治療や骨髄移植を受ける患者に対する看護を行っていました。抗がん剤を受ける患者は、何度も入退院を繰り返しながら寛解をめざして治療を行っていきます。長期にわたる治療になるため、患者への身体的な症状や苦痛に限らず、精神的な面でも苦痛が軽減できるよう関わっていました。

今回、6階病棟 ALSセンターに配属になり、今までかかわったことがない疾患をもつ患者さんと関わり、コミュニケーションや家族との関係づくりに戸惑うこともあります。今まで経験してきたことが少しでも生かせるように、また、職員の皆様と楽しく働けるように頑張っていきたいと思っています。

わからないことも多く、ご迷惑おかけすることもあると思いますが、よろしくお願ひいたします。

■ 事務部

企画課長
吉田 二郎

4月1日付で宮崎東病院より配置換えで企画課長として参りました吉田と申します。熊本での勤務は24年ぶりとなり非常に懐かしく思っております。赴任した際、熊本再春医療センターの入り口の桜が満開で、緊張の中とても心が和みました。来院される患者さんやご家族の方々の気持ちも安らいでいることと思います。企画課では今年度は御代志地区土地区画整理事業に伴う駐車場貸付、感染症病床の指定・運用開始、電子カルテの更新等のさまざまな課題もありますが、精一杯頑張りたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願ひいたします。